

様式2 令和3年度 清瀬市立 清瀬第三中学校 学校評価表

学校教育目標	人間尊重の精神を基盤とし、希望に満ちた社会をめざす健康で明るく、知性ある人間を育成する。1. 思いやりのある生徒・思考力 2. 自主性のある生徒・行動力 3. 協力する生徒・人間力	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動 1 教育活動全体で命の教育についての指導を実施するとともに、人権尊重を意識した教育活動を展開し、自尊感情や自己有用感を高めさせ、自他の命を大切にできる態度を育てる。 2 生徒の主体性を意識した学校生活を向上させるための取組を充実し、これからの時代に必要な資質・能力を育成する。また、市民ボランティア等の協力を仰ぎ、生徒の学校生活の充実を図る。 3 体験活動への主体的な取組を推進するとともに、保護者や地域を巻き込んだ取組を取り入れ、より多くの考えや意見に触れることを通して視野を広げさせ、他と共に学ぶことのよさを体感させる。
目指す学校像(ビジョン) 【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】	生徒、教職員共に互いを認め合い、安心・安全に生活できる学校 思いやりのある生徒、自主性のある生徒、協力する生徒 確かな学力を身に付けさせる教師、生徒から目標とされる教師、自己研鑽に励む教師	
前年度までの学校経営上の成果と課題	昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、臨時休校を含め学校での教育活動が大きく制限された。保護者や外部人材を活用した活動はほとんど実施できず、規模を抑え、感染対策を施して実施した活動についても保護者への周知が不足し、保護者の評価も低くなってしまった。しかし、生徒たちは、限られた条件の中で実施できる活動を真剣に取り組むことができた。全学年、授業規律を守り、静かな学習環境の中で、集中して授業に取り組んでいる。家庭での学習については家庭との連携が不十分であり、学校の取組みについての理解が進まず、学習の定着と結びついていない現状がある。また、生徒一人一人のよさや能力を伸ばす教育に取り組んでいるが保護者への浸透には課題がある。	

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価		学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
		取組指標	成果指標		
確かな学力の向上	・家庭学習定着のための取組実施。(各コンテスト・検定試験・ライブの活用) ・長期休業中、放課後、定期考査前の補習学習の実施。		学年、担任による家庭学習定着のための取組が不十分であった。次年度に向けてより効果的な方法について検討する。補習学習については、各教科で工夫して定期考査前や長期休業中に実施できた。今後も継続していく。	・できる生徒により高いレベルの指導が求められる。課題がもう少し多くてもよいと感じます。 ・先生方の努力を感じます。 ・家庭学習の定着が課題。保護者への浸透・協力をどのように得るか検討・協議が必要。	学年、担任による家庭学習定着のための取組が不十分であった。次年度に向けて保護者への浸透・協力も行いながら、より効果的な方法について検討し、実施する。補習学習については、各教科で工夫して定期考査前や長期休業中に実施できた。課題の量や難易度については生徒の様子から判断し、今後も継続していく。
	・生徒が自ら考える授業を重点に「分かる授業」を組織的に実践。		ICT機器の活用など、各教科で工夫して分かる授業を実践した。GIGA端末の導入に伴い、さらに生徒にとって、わかりやすい授業を行うとともに、生徒が主体的に考える取り組みも盛り込んでいく。	・新しい機器を使いこなさず、生徒に教えるのは大変なことだと思えます。 ・授業の様子を見てみたいです。 ・不得意な生徒へのサポートも検討していく。	ICT機器の活用など、各教科で工夫して分かる授業を実践した。GIGA端末の導入に伴い、さらに生徒にとって、わかりやすい授業を行うため、教員のスキルを回り、併せて生徒の活用スキルの向上を目指す。生徒が主体的に考える取り組みも盛り込んでいく。
豊かな心の育成	・「考え、議論する道徳」の実施。 ・各教科の中で人権に関わる内容を意識的に取り上げ、自他を尊重する意識を向上させる。		人権尊重教育研究校として各教科の中で、人権に関わる内容を意識的に取り上げ、自他を尊重する意識の向上が図れた。次年度も継続し、さらに意識の向上を図っていく。	・学校、生徒、保護者の意識が高まってきていると感じます。 ・人権問題は理解がたいこともあり、国際情勢も踏まえて自身の考えを明確にしておく。	人権尊重教育研究校として各教科の中で、人権に関わる内容を意識的に取り上げ、自他を尊重する意識の向上が図れた。次年度も継続し、地域、保護者と連携を図りながら、それぞれの人権意識の向上を図っていく。
	・いじめ撲滅運動 ・地域清掃、落ち葉掃き、雪かき活動 ・職業調べ		生徒会が中心となり、地域清掃や落ち葉掃きなど、活発に取り組むことができた。挨拶運動も効果を上げている。引き続き実施していく。	・登校中の生徒が挨拶を返してくれるのも挨拶運動の成果と思われず。 ・いじめ問題は常に現れることを念頭に置き、声かけ等を実施する。	生徒会が中心となり、地域清掃や落ち葉掃きなど、活発に取り組むことができた。挨拶運動も効果を上げている。引き続き実施していく。いじめ問題についても人権尊重教育での活動を実践し、自他を尊重する意識を持たせ、いじめ撲滅に向けた生徒主体の活動を取り入れていく。
健やかな体の育成	・保健体育の授業での30分間水泳、12分間持久走。 ・準備運動の工夫による体力向上。		体育の苦手な生徒も一定数居るが、それぞれが目標を定め、授業に取り組んだ。コロナ禍の影響で、全体的に記録は伸びなかったが、体力の向上にはつながったと考えられる。今後も継続していく。	・体力、持久力の向上はすべての源なので少しずつでも成果が見えるのはうれしいことです。	体育の苦手な生徒も一定数居るが、それぞれが目標を定め、授業に取り組んだ。コロナ禍の影響で、全体的に記録は伸びなかったが、体力の向上にはつながったと考えられる。それぞれが取り組んだ結果について目に見える形で示し、成果が実感できるようにする。今後も継続していく。
	・毎月、保健だよりを発行し、健康について啓発する。 ・委員会活動(昼の放送、食育講話)で食育教育の充実を図る。		保健だよりを通じて、健康についての啓発を行い、意識の向上を図れた。食育については委員会が中心となって進め、食事のマナーや箸の使い方など、生徒は興味を持って取り組むことができた。	・保護者の協力が必要な項目なので少しずつでも成果が上がってほしいです。 ・体力の向上と共にコロナ予防も継続。 ・日常の病気予防と怪我・事故への危険予知も話し合っておく。	保健だよりを通じて、健康についての啓発を生徒・保護者に向けて行い、意識の向上を図れた。次年度は病気の予防や怪我・事故への危険予知も実施する。食育については委員会が中心となって進め、食事のマナーや箸の使い方など、生徒は興味を持って取り組むことができた。今後も継続していく。
特別支援教育の充実	・特別支援教室利用生徒への一貫した指導・支援を行う。		取組指標は高いものの、成果指標は取組の状況を知らない保護者が多いため低い数値となった。取り組み内容をどのようにかかわりの少ない保護者に周知するかが課題となる。	・アンケートでは評価が難しいと思う。一般の保護者には取組が見えない。 ・特別支援教室のPRが足りないように思う。 ・保護者への周知が課題。地道に繰り返し発信。	取組指標は高いものの、成果指標は取組の状況を知らない保護者が多いため低い数値となった。取り組み内容をどのようにかかわりの少ない保護者に周知するかが課題となる。次年度は特別支援教室のPRを積極的に行い、保護者、生徒の特別支援教育に対する理解を進める。
	・特別支援校内委員会、およびステップルームを活用し、教室復帰を目標とした個別支援を行う。		不登校の原因として発達に起因するものが見受けられる。特別支援校内委員会では、SCに積極的につなげたり、ステップルームでの支援方法を考えたりと個別の支援について検討し、実行していく。	・一人ひとり原因が違うので個別の支援を続けていくしかないです。 ・保護者と連携して対応。様々な人々とかかわり向き合う。	不登校の原因として発達に起因するものが見受けられる。特別支援校内委員会では、SCに積極的につなげたり、ステップルームでの支援方法を考えたりと個別の支援について検討し、実行していく。ステップルームではボランティアの学生など、様々な人との関わることで様々な考えにふれる機会を増やしていく。
本校の特色	・キャリア教育(高校、事業所) ・道徳(命の講話) ・国際理解教育(留学生) ・携帯安全教室(企業)		成果指標が4にならなかったのは、コロナ禍の影響で地域や家庭が参加する機会が失われたためと考えられる。ICTを活用し学校からの情報発信を増やすことで、共に学ぶ機会を増やし、キャリア教育の周知を図っていく。	・職場体験ができることを望みます。 ・外部からの人を招いての講演会などは難しい状況なので無理な成果と思われず。 ・ICTの活用を継続。	成果指標が4にならなかったのは、コロナ禍の影響で地域や家庭が参加する機会が失われたためと考えられる。ICTを活用し学校からの情報発信を増やすことで、共に学ぶ機会を増やし、キャリア教育の周知を図っていく。
	・専門家による剣道の指導(授業) ・外部指導員による技術向上(部活動)		部活動指導員、課外部活動指導員をそれぞれ任用しているが、当該の部活動以外ではその指導について知られていない。学校だより、HPを活用して、技術向上の成果を保護者に発信していく。	・外部指導員が来てくださっているのはありがたいですが詳しくは知らないです。 ・コロナ禍で外部講師の協力が難しくなっているが引き続き協力を要請する。	部活動指導員、課外部活動指導員をそれぞれ任用しているが、当該の部活動以外ではその指導について知られていない。学校だより、HPを活用して、技術向上の成果を保護者に発信していく。